

【UD 関西・研究会レポート】 第 15 回研究会

■宝塚にも小雪の舞った 1 月 26 日。UD 関西支部「第 15 回 研究会」が関西学院初等部に開催されました。今回も、公式ホームページの告知(<http://www.udkansai.net/>)からわずかな期間で「定員」となる注目度の高さ。先生方のご熱心さに頭が下がる思いです。

【① 公開授業】

■山本良和先生(筑波大学附属小学校)による算数「平均」の授業でした。関西学院の 5 年生が、数字カードを使ってできる「2 桁の数」の平均について、果敢に挑んだ 1 時間となりました。■参観者が唸ったのは、山本先生の「子どものみと



り」の確かさと「細やかな手だてや支援」の数々。このクラスの子どもたちとは初めての出会いであることを疑ってしまうくらい、山本先生は、瞬時に子どもたちの心をつかみ、レディネスを把握されました。この確かな山本先生の「みとり」と「支援」には、特別支援のお立場で授業をご覧になっていた、講師の阿部利彦先生(星槎大学)も驚かれるほど。

【② 授業説明会】

■午後の「授業説明会」は、授業者ご自身による解説で進行。机間巡視のわずかな時間で、山本先生は一体、子どもたちの何を見て、それを、授業の組み立てにどう活かされているかが次第に明らかになりました。■よく使われる授業技術ですが、隣の子と学びを共有させ合うペアトーク。(「お隣の子と説明し合ってください。」) このペアトークは、筑波の先生方の授業によくお見受けする手法で、全国の教室にも広がっていますが、

- ・何を確認させ合うのか。(逆に何は話題として取り上げないのか。)
- ・教師は、ペアトークしている子どもたちの、何を聴き取るべきか。

→(40 人すべての子どもたちの語らいを聴けないので、どこに注目するか。)

などをご説明いただきました。■ペアトークのように、学びを共有させ合い定着を図らせる授業技術は、いろいろあります。しかし、それら多くの手法の意味を理解し、そこに積極的な「技術の取捨選択」が授業者にあるかどうか重要であることが学べました。目の前の大切な、クラスの子たちに合った手法を学び、取り入れるべきだからです。■西健明先生(関西学院初等部)もご登壇。公開クラス担任の立場から、子どもたちの普段の様子と本授業との変容や、担任だからこそ分かる山本先生の支援の細やかさをお話になりました。

【③ 講演】

■ご講演は、授業説明会にもパネリストとしてご登壇された阿部利彦先生(星槎大学)による『教育における3つのユニバーサルデザイン ～特別でない特別支援教育～』。阿部先生は「授業をユニバーサルデザイン化」する際の視点を、以下5つ、与えてくださりました。

- ひきつける
- むすびつける
- 方向づける
- そろえる
- わかった、やりとげたと感じさせる

■そして、これら5つの視点をつくりだしている授業や子どもの姿について、具体例を交えてながら明快にお話くださいました。■また、「教室環境のユニバーサルデザイン化」や「人的環境のユニバーサルデザイン化」についても、具体を通してお話くださいました。



【④ 代表挨拶 (UD 研究会関西支部)】

■村田辰明先生(関西支部)は代表挨拶の中で、「教育界でUDが注目され、大きなうねりになっていることは、全国の子どもたちにとって喜ばしいことです。でも、私たちが注意しなければならない点もあります。UDはあくまで教育の手段であって、教育の目的ではない、ということです。授業の中にUDの視点を落とし込むことが授業者の目的ではありません。目の前の子どもたち一人ひとりを思い浮かべた時に、どんな支援が必要かを悩み、考え、よりよい支援を取捨選択しようとする教師の姿勢こそが大切です。それを語り合い、深めて行くこの研究会でありたいです。」そんな主旨の話を述べました。

【⑤ 懇親会】

■懇親会にも多くの先生方がご参加。愛知や埼玉にお帰りになる方々が、ギリギリの時間まで語らわれたり、初めてご参加の方々も情報交換をしながらUDや日本の教育の明日について語り合えたりできた、貴重な時間となりました。■懇親会でも山本良和先生は素晴らしいお話を聴かせてくださいました。「すべての子どもたちができる・わかる授業だけを、私は目指していません。そこからさらに、“だったら…(別の場面ではどうかな)”と、自ら学びを拓く子どもたちに育てて欲しい。そう考えて授業をつくっています。」このお話は、本会の研究推進にも、大きなご示唆を与えてくださる言葉だと感じました。

(文責・UD研究会 関西支部)